

保育総合研究会広報誌 NO. 61

発行所： 保育総合研究会事務局 H27・7
茨城県東茨城郡茨城町上飯沼1276-1 飯沼保育園内
TEL029-292-6868 FAX 029-292-3831
発行人： 会長 梶 沢 幸 苗



平成27年5月20日(水)午後1時から、アイビーホール青学会館において総会並びに第48回定例会が行われた。

定期総会

吉本博光氏(熊本県)が議長に選出され、平成26年度 事業報告及び決算報告、平成27年度 事業計画及び予算(案)が審議、原案通り承認された。



- 総会議事(13:00~14:30)
- (1)平成26年度事業報告及び決算報告
 - (2)平成27年度事業計画及び予算(案)
 - (3)役員選出
 - (4)その他

1. 平成26年度事業報告

国では平成27年4月に子ども・子育て支援新システムの本格実施が可能とするために準備を進めてきたが、財源とする消費税10%を18か月(平成29年4月まで)延長するを決めた。しかし、新システム本格実施は予定通り本年4月から実施することを決断、財源についても5,100億円程度確保した。こうした中で第48回定例会では、厚労省橋本保育課長を招き新システムにおける公定価格仮単価等について講演を頂いた。第49回定例会では前・駐スウェーデン大使を迎え欧州視察研修に備えてスウェーデンの状況について講演を頂いた。第50回記念定例会は視察先のパリでの開催、講師にはOECD教育スキル局シニア政策アナリストを迎え、本年は3回の定例会を実施した。年次大会では「未来制覇／稀代の現在を真剣に迎え進める」をテーマに、岡崎女子大学教授並びに厚労省幼保連携推進室長を迎えて実施した。8月には環太平洋乳幼児教育学会においてポスター発表する機会を得て、当会から6名を派遣した。開催場所はインドネシア・バリ島で、昨年度の保育科学研究した「保育ドキュメント」をポスターにして発表した。12月には当会設立15周年記念事業として、欧州(スウェーデン・パリ)視察研修事業を実施し、27名の参加で実施した。新システム本格実施に向けて、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が公布され、その解説を兼ねたサポートブック作成に向けて執筆活動をしてきた。そして、本年1月20日、世界文化社から発刊することができた。日本保育協会委託事業、保育科学研究は「保育の現場に必要な科学的思考とその根拠に関する研究」をテーマに、昨年の引き続き神戸大学准教授を招いて研究活動をしてきた。情報発信としては当会ホームページに研修実施を掲載して会員外にも周知、参加を促した。会員向けには広報誌No57号~59号を発行して研修内容を掲載してきた。日本保育協会発行の保育界に「シリーズ:乳幼児期の保育所保育の必要性」を4月~3月まで寄稿掲載してきた。又、世界文化社の保育プリプリに保育過程、指導計画を付録掲載してきた。

| 年月日 | 事業内容 | 場所 |
|-------------|--|--------------------------------------|
| 平成26年 4月18日 | ・新幼保連携型認定こども園教育・保育要領レクチャー (ゲスト・文科省幼児教育調査官 湯川秀樹氏) | 世界文化社会議室 |
| 4月 22日 | ・第1回役員会、監事会(15名) | 東京・アルカディア市ヶ谷私学会館 |
| 4月 28日 | ・15周年記念事業欧州視察研修参加者募集 | (4/28~5/20まで) |
| 5月 27日 | ・定期総会(59名参加) ・第48回定例会 (ゲスト 厚労省保育課長 橋本泰宏氏) | 東京・アイビーホール青学会館 |
| 5月 28日 | ・環太平洋乳幼児学会ポスター発表打合せ | 世界文化社会議室 |
| 5月 30日 | ・会費請求送付 | (会員に送付) |
| 6月 30日 | ・第1回教育・保育サポートブック作成委員会(16名) | 世界文化社会議室 |
| 7月 1日 | ・第1回保育科学研究委員会(14名) ・環太平洋乳幼児学会ポスター発表打合せ(4名) | 世界文化社会議室 |
| 8月 8日 | ・環太平洋乳幼児学会ポスター発表(6名) (イナ グランド バリビーチホテル) | 世界文化社会議室 インドネシア・バリ島 |
| 8月 25日 | ・文書役員会(欧州視察追加助成について) | (役員にメール配信) |
| 9月 11日 | ・第2回保育科学研究委員会(16名) | 大阪・ハートンホテル心齋橋 |
| 10月 2日 | ・保育科学研究打合せ(北野准教授他3名) | 東京・品川プリンスホテル |
| 10月 7日 | ・第3回保育科学研究委員会(14名) ・第49回定例会(32名) (ゲスト 前スウェーデン大使 渡辺芳樹氏) (ゲスト 日通旅行 岡村康彦氏) | 東京・アルカディア市ヶ谷私学会館 東京・アルカディア市ヶ谷私学会館 |
| 10月 8日 | ・第2回教育・保育サポートブック作成委員会(13名) | 世界文化社別館会議室 |
| 11月 4日 | ・平成27年度保育科学研究参加申請 | (日本保育協会) |
| 12月 3日 | ・設立15周年記念欧州視察研修(27名) | (ストックホルム・パリ) |
| 12月 8日 | ・第50回定例会inパリ(27名) (ハイアットリージェンシー パリ エトワール会議室) (ゲスト OECD教育スキル局シニア政策アナリスト 田熊美穂) | (パリ) |
| 平成27年 2月23日 | ・第3回役員会(17名) | 東京・アルカディア市ヶ谷私学会館 |
| 2月 23日 | ・平成26年度年次大会 (ゲスト 岡崎女子短大教授 矢藤誠慈郎氏) (ゲスト 厚労省幼保連携推進室長 南 新平氏) | 東京・アルカディア市ヶ谷私学会館 |
| 2月 24日 | ・教育保育サポートブック研修会研修(23名) | 東京・アルカディア市ヶ谷私学会館 |
| 4月 23日 | ・広報誌No.57号発行 | |
| 7月 7日 | ・広報誌No.58号発行 | |
| 12月 25日 | ・広報誌No.59号発行 | |
| 4月~3月 | ・保育界執筆 | 乳幼児期の保育所保育の必要性25~35 |
| 4月~3月 | ・世界文化社プリプリ付録掲載 | |

平成26年度会計収支決算書

| (収入の部) | | | | (単位 円) |
|----------|-------------|-------------|------------|-------------------------------------|
| 科目 | 予算額 | 決算額 | 比較増減 | 備考 |
| 会費収入 | 1,940,000 | 1,910,000 | 30,000 | 会費20,000×94 10,000×1 入会金10,000×2 |
| 事業費収入 | 2,401,000 | 3,915,741 | -1,514,741 | |
| ・定例会等参加費 | (1,500,000) | (1,624,000) | (-124,000) | 総会・定例会4回・年次大会他 |
| ・原稿執筆料 | (900,000) | (2,291,741) | -1,391,741 | プリプリ、保育サポート印税 |
| ・冊子販売料 | (1,000) | 0 | (1,000) | |
| 寄付金収入 | 1,000 | 10,000 | -9,000 | |
| 雑収入 | 2,000 | 450,984 | -448,984 | 利息、世界文化社助成金450,000を含む |
| 繰越金収入 | 5,998,716 | 5,998,716 | 0 | |
| 合計 | 10,342,716 | 12,285,441 | -1,942,725 | |

| (支出の部) | | | | (単位 円) |
|---------|-----------|-----------|------------|-----------------------|
| 科目 | 予算額 | 決算額 | 比較増減 | 備考 |
| 会議費 | 300,000 | 221,191 | 78,809 | 役員会、監事会室料・弁当代他 |
| 事業運営費 | 2,600,000 | 2,341,924 | 258,076 | 総会・定例会・年次大会、懇親会、保育科学等 |
| 研究活動費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 三部会各10万 |
| 通信費 | 150,000 | 109,907 | 40,093 | 切手・宅配・送金料 |
| 委託費 | 120,000 | 120,000 | 0 | HP管理料・事務局経費 |
| 印刷製本費 | 200,000 | 188,058 | 11,942 | 保育科学冊子、広報誌印刷代等 |
| 備品消耗品費 | 100,000 | 0 | 100,000 | |
| 旅費 | 200,000 | 100,490 | 99,510 | 打合せ旅費 |
| 雑費 | 100,000 | 52,824 | 47,176 | 慶弔費 |
| 特別会計繰出金 | 1,000 | 3,000,000 | -2,999,000 | |
| 予備費 | 5,871,716 | 428,198 | 5,443,518 | 保育サポートブック献本、特別会計不足金 |
| 合計 | 9,942,716 | 6,862,592 | 3,080,124 | |

[一般会計]収入総額(12,285,441円)－支出総額(6,862,592円) 差引残高5,422,849円
 ※環太平洋567,783+欧州視察費2,840,000 当会負担合計3,407,783円
 (負担総額3,407,783円)－(特別会計取崩金3,000,000)＝差引不足額407,783円(予備費処理を含む)

平成26年度会計特別会計積立決算書

| (収入の部) | | | | (単位 円) |
|--------|-----------|------------|------------|--------|
| 科目 | 予算額 | 決算額 | 比較増減 | 備考 |
| 積立金収入 | 1,000 | 3,000,000 | -2,999,000 | |
| 雑収入 | 1,000 | 1,696 | -696 | |
| 繰越金収入 | 8,504,940 | 8,504,940 | 0 | |
| 合計 | 8,506,940 | 11,506,636 | -2,999,696 | |

| (支出の部) | | | | (単位 円) |
|--------|-----------|------------|------------|--------------|
| 科目 | 予算額 | 決算額 | 比較増減 | 備考 |
| 取崩金支出 | 4,000,000 | 3,000,000 | 1,000,000 | 環太平洋、欧州視察負担金 |
| 雑支出 | 1,000 | 0 | 1,000 | |
| 次期繰越金 | 4,505,940 | 8,506,636 | -4,000,696 | |
| 合計 | 8,506,940 | 11,506,636 | -2,999,696 | |

[特別会計]収入総額(11,506,636円)－支出総額(次期繰越金)(11,506,636円) 差引残高0円

平成26年度保育科学研究委託事業決算書

| (収入の部) | | | | (単位 円) |
|---------|---------|---------|-------|--------|
| 科目 | 予算額 | 決算額 | 比較増減 | 備考 |
| 委託事業費収入 | 500,000 | 500,000 | 0 | 日本保育協会 |
| 雑収入 | 1,000 | 0 | 1,000 | |
| 合計 | 501,000 | 500,000 | 1,000 | |

| (支出の部) | | | | (単位 円) |
|--------|---------|---------|---------|--------|
| 科目 | 予算額 | 決算額 | 比較増減 | 備考 |
| 旅費 | 320,000 | 320,000 | 0 | |
| 会場借料 | 50,000 | 54,060 | -4,060 | |
| 消耗品費 | 10,000 | 45,360 | -35,360 | |
| 印刷費 | 10,000 | 15,743 | -5,743 | |
| 通信運搬費 | 5,000 | 21,254 | -16,254 | |
| 会議費 | 50,000 | 43,583 | 6,417 | |
| 役務費 | 50,000 | 0 | 50,000 | |
| 雑費 | 6,000 | 0 | 6,000 | |
| 合計 | 501,000 | 500,000 | 1,000 | |

[委託事業会計]収入総額(500,000円)－支出総額(500,000円) 差引残高0円

2. 平成27年度事業計画(案)

国は子ども・子育て支援新システムを本年4月からスタートし、保育所・認定こども園・幼稚園(私学助成を除く)は内閣府に一本化された施設型給付に変わり、幼稚園、保育所制度の創設以来の大きな転換となりました。一方、施設の経営基盤である社会福祉法人のあり方について、社会保障審議会等で議論がなされ、社会福祉法人改革法案が国会に提出されました。このように保育現場、経営基盤の社会福祉法人を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。

保育現場では保育所又は認定こども園のいずれかの事業形態を選択してサービス提供、しかし、移行について公定価格等詳細情報の遅れなどから移行の判断に混乱もあるようです。又、保育士(又は保育教諭)等の人材不足がある中で、施設型給付には職員配置が求められ、更に地域型保育における延長・一時・子育て支援等のサービス提供にも人材が必要とされています。社会状況の変化と共に新システムがスタート、待機児童、人口減少等の地域状況によって、支援の方法、子どもの成長発達の保障の在り方が問われてきます。

これからの保育の在り方について研究事業を実施、研修会を通じて会員の情報の共有化、広く保育園・幼稚園・認定こども園、一般にも情報発信して質の向上を目指して事業展開するものです。

1. 事業

- ①定例会の開催
- ②年次大会の開催
- ③部会の開催(保育内容部会・人材部会・子育て支援部会)
- ④広報誌の発行(定例会並びに年次大会の都度)
- ⑤日保協保育界、世界文化社保育プリプリに寄稿して掲載する。
- ⑥その他必要に応じ関係すること
 - ・保育科学研究事業(日本保育協会委託事業)
 - ・環太平洋乳幼児教育学会派遣(シドニー・H27.7.24～7.26)
 - ・教育保育要領サポートブック研修
 - ・第5回学会議発表(全国町村議員会館H27.9/4～/5)
 - ・次世代(JAMEE)研修会

2. 会 議

①総会の開催

②役員会・監事会の開催

3. 事業日程内容

| 年 月 | 事 業 内 容 | 備 考 |
|---------|----------------------------------|-------------------------|
| 平成27年4月 | ・第1回保育科学研究委員会 | ・名古屋(4/21) |
| 5月 | ・役員会 ・監事会 ・定期総会 ・第51回定例会 | ・東京(5/20) |
| 6月 | ・次世代研修会 | ・東京(6/10～11) |
| 7月 | ・第2回保育科学研究委員会 ・教育保育サポートブック研修会 | ・熊本市(7/11) |
| 8月 | ・環太平洋乳幼児教育学会ポスター発表 | ・オーストラリア シドニー(7/24～/26) |
| 9月 | ・第52回定例会 | ・新潟(8/18) |
| 10月 | ・第5回学術会議発表 ・第53回定例会 | ・東京 全国町村議員会館(9/4～5) |
| 12月 | ・次世代研修会 | |
| 平成28年2月 | ・第3回保育科学研究委員会 | |
| 3月 | ・年次大会 ・役員会 | |

※ 尚、ゲスト講師はその都度、行政・報道関係・医師・教育関係者等を迎える予定である。

平成27年度会計収支予算書(案)

(収入の部) (単位 円)

| 科 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 比較増減 | 備 考 |
|-----------|-------------|-------------|----------|--------------------|
| 会 費 収 入 | 1,940,000 | 1,900,000 | -40,000 | 20,000×94 10,000×2 |
| 事 業 費 収 入 | 2,401,000 | 2,401,000 | 0 | |
| ・定例会等参加費 | (1,500,000) | (1,500,000) | 0 | 定例会・年次大会参加費等 |
| ・原稿執筆料 | (900,000) | (900,000) | 0 | 保育プリプリ、印税等 |
| ・冊子販売料 | (1,000) | (1,000) | 0 | 保育サポートブック等 |
| 寄 付 金 収 入 | 1,000 | 1,000 | 0 | |
| 雑 収 入 | 2,000 | 1,000 | -1,000 | 利息等 |
| 繰 越 金 収 入 | 5,598,716 | 5,422,849 | -175,867 | |
| 合 計 | 9,942,716 | 9,725,849 | -216,867 | |

(支出の部)

| 科 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 比較増減 | 備 考 |
|-------------|-----------|-----------|------------|---------------------|
| 会 議 費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 役員会・会議室料、弁当代他 |
| 事 業 運 営 費 | 2,600,000 | 2,600,000 | 0 | 定例会・年次大会・懇親会費、保育科学等 |
| 研 究 活 動 費 | 300,000 | 400,000 | 100,000 | 部会活動、次世代 |
| 通 信 費 | 150,000 | 150,000 | 0 | 送料他 |
| 委 託 費 | 120,000 | 120,000 | 0 | HP管理料・事務局経費 |
| 印 刷 製 本 費 | 200,000 | 600,000 | 400,000 | 広報誌印刷、環太平洋ポスター等 |
| 備 品・消 耗 品 費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 封筒代他 |
| 旅 費 | 200,000 | 600,000 | 400,000 | 派遣旅費 |
| 雑 費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 慶弔費他 |
| 特別会計繰出金 | 1,000 | 1,000 | 0 | |
| 予 備 費 | 5,871,716 | 4,754,848 | -1,116,868 | 環太平洋乳幼児学会等 |
| 合 計 | 9,942,716 | 9,725,848 | -216,868 | |

(科目間の流用を認めるものとする。)

平成27年度特別会計予算書(案)

(収入の部) (単位 円)

| 科 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 比較増減 | 備 考 |
|-----------|-----------|-----------|-------|-----|
| 積 立 金 収 入 | 1,000 | 1,000 | 0 | |
| 雑 収 入 | 1,000 | 1,000 | 0 | |
| 繰 越 金 収 入 | 8,504,940 | 8,506,636 | 1,696 | |
| 合 計 | 8,506,940 | 8,508,636 | 1,696 | |

(支出の部)

| 科 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 比較増減 | 備 考 |
|-----------|-----------|-----------|------------|---------|
| 取 崩 金 支 出 | 4,000,000 | 1,000 | -3,999,000 | 海外研修助成等 |
| 雑 支 出 | 1,000 | 1,000 | 0 | |
| 次 期 繰 越 金 | 4,505,940 | 8,506,636 | 4,000,696 | |
| 合 計 | 8,506,940 | 8,508,636 | 1,696 | |

平成27年度保育科学研究所委託事業予算書(案)

(収入の部) (単位 円)

| 科 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 比較増減 | 備 考 |
|---------------|---------|---------|------|--------|
| 委 託 事 業 費 収 入 | 500,000 | 500,000 | 0 | 日保協委託費 |
| 雑 収 入 | 1,000 | 1,000 | 0 | |
| 合 計 | 501,000 | 501,000 | 0 | |

(支出の部)

| 科 目 | 前年度予算額 | 本年度予算額 | 比較増減 | 備 考 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|
| 旅 費 | 300,000 | 320,000 | 20,000 | 旅費助成等 |
| 会 場 借 料 | 70,000 | 50,000 | -20,000 | 会場費等 |
| 消 耗 品 費 | 10,000 | 10,000 | 0 | コピー用紙等 |
| 印 刷 費 | 10,000 | 10,000 | 0 | 資料印刷費等 |
| 通 信 運 搬 費 | 5,000 | 5,000 | 0 | 切手代等 |
| 会 議 費 | 70,000 | 50,000 | -20,000 | 茶菓、昼食代等 |
| 役 務 費 | 5,000 | 50,000 | 45,000 | 会議録作成等 |
| 雑 費 | 31,000 | 6,000 | -25,000 | |
| 合 計 | 501,000 | 501,000 | 0 | |



第51回 定例会(14:30~17:30)

〈報告〉平成26年度保育科学研究報告

(報告者) 当会会長 梶沢 幸苗

平成26年8月8日、インドネシア・バリ島で行われた環太平洋乳幼児学会ポスター発表の報が行われた。



〈講演〉テーマ「社会性の発達の遥藍としてのアタッチメント」

(講師) 東京大学大学院教育学研究科 教授 遠藤 利彦氏



<世界における長期継続研究の実際>

・アタッチメント→いかに養育者とのかかわりがあるか研究→10年後20年後その子どもたちが他の人とどのように関わっていくか

・自分が愛されているという感覚をもっている子どもは、基本的な信頼関係ができており、少々つらいことがあってもちゃんとした大人になっていく

・ナチュラルエクスペリメント(自然に生じてしまった実験)

実際に悪い環境・条件のもとで育った子どもたちのデータをもとに、何をすればいいのか研究していく

・教育の投資文化

就学前まで100万かけてもらった子は、大人になったときその15~18%アップでかせぐことができる

経済という観点からみると乳幼児期にお金を使うことが有効

例 黒人の貧困層→IQ80前後のグレーゾーン 遺伝子ではなく、家庭環境によるもの 貧困—シングル—喫煙

その子たちに対して2年間幼稚園に行くのと何もしないで追跡調査を行う

幼稚園に通っている間はIQが伸びるが、引き上げられたからといって幸せにつながらない IQとは認知的な能力それ以外の非認知的能力(社会性)が大切

社会性など当たり前のことは、家庭だけではなく、ちゃんとした大人とのアタッチメントをとり続けることが大切→貧困層の母親の場合も保育士等を介入して地域とつながって生活できるようにしていくことで、その後も地域とかかわることができていく

<「幼児期決定論」の誤謬>

人は、どの時点からやり直しができる力(可塑性)があるが、年齢が上昇するとともに、その可塑性・変化の回復は徐々にへっていく。そのことから幼児期のちゃんとした養育・教育・保育が大切である。

→教育とは早期教育ではなく、家庭外でのアタッチメントを十分にすること(自然な大人とのかかわり)

<社会性こそがヒトの強み>

人間は大人になっても子どもっぽい性質をもっている

本来大人になるということは、一人で生きていくということ→攻撃性が強くなる→猜疑心・警戒心が強くなる→集団生活ができにくくなる

子どもっぽいということは、人を信頼し、じゃれあうことができるということ

子どもの健やかな発達においては、共感・思いやりの気持ちを持ち、ルールを守り、道徳性を身につけさせることが目標である。人の最大の強みが社会性である

<アタッチメントとは何か>

アタッチメントとは、くっつくこと...危険に接し、恐れや不安などのマイナスの感情が生じたとき、いつでも特定の誰かにくっつきたい

その人にくっつくことで「もう大丈夫」という安全であるという感覚をえようとする

内界(心と体の状態全部) 外界(それ以外のもの) ネグレクトなどで外界からの不安になすべがない状態が続くと無力になる

・無差別的社交性 何かの為にくっつく→目的が達成されると執着せずに次の人にうつる→特定の人との関係が深まっていけない

いつも同じ人が、怖いとき・不安な時にいてくれる、なぐさめてくれるという体験を繰り返すことで子どもは「何があってもこの人なら大丈夫」という見通しをもつ

見通しをもつことで、積極的になる・チャレンジできる、自立的に探索冒険ができる、一人で何かをすることができる子どもになる。栄養をくれる人が、子どもにとって重要なのではない。

人にとって、怖い時にくっつくことが大切なのは、子どもの時だけでなく、生涯必要である。いて当たり前の人がいることが人を支えている 配偶者などとの死別体験をすることが一番ストレスは精神的だけでなく、体力的にも弱くなる

・アタッチメント理論

安全基地

子どもにとって特別な大人の人を基地として元気に飛び出していける・好奇心が芽生えてくる(触りたい動かしたいなどのいろいろな遊びを体験することで考え、学びにつながる)

<安全感の輪>

マイナス感情になったとき、自らかけこんでなぐさめてもらいたい、燃料補給(元気)をして、また飛び出していくという輪っか

子どもが成長するということは、この輪っかが徐々に大きくなっていくということ輪が大きくなるということは、戻る必要がなくなっていくということ→自立性

・基地は見守るというスタンス

子どもに不安な思い、痛い思いをさせまいと、後をついて回ることではない

子どもがマイナス感情をもった時に、自分から何とかしよう(声を出す、自分から動いてくつくと動くことが大切。そのことが感情を立て直すことができる、自分にはできるという自立心、自己肯定感につながる

・感情の調節...くずれた感情をアップさせるには、子どもの中でおきていることに寄り添い、大人がその感情を映し出す最初に十分受け入れられた子は、そのことを当たり前のことと思い、他の所(保育所など)へ行っても同じようにできる(人を信頼する)